

IBM Connections

## IBM Connections Plug-In for Microsoft Outlook

インストールのヘルプ

**IBM**

## 本版での注意

**お願い:** 本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、「特記事項」に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Connections バージョン 5.5、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

### **以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。**

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可

能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

## 目次

IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook のインストールと構成 .....	6
インストール手順 .....	6
プラグインのインストール方法:.....	6
プラグインの修復または削除の方法 .....	6
サイレント・インストールの実行 .....	6
手順 .....	6
例 .....	7
中央インストールの実行 .....	7
インストールのカスタマイズ .....	9
クライアント使用量メトリック .....	9
IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook のプロビジョン .....	9
中央でのプロビジョン内容 .....	9
プロビジョニングの実行方法 .....	10
デフォルト値の設定方法:.....	10
IBM Connections Plug-in レジストリー・キー .....	11
ユーザーに値を強制する方法:.....	20
URL をプロビジョンする方法:.....	20
管理者とユーザーの設定の統合方法 .....	21

# IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook のインストールと構成

## インストール手順

この説明資料では、IBM Connections への簡単で、フル機能のアクセスを提供する Outlook メール・サイドバー・アプリケーションである IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook® のインストール方法を説明します。ファイル上で共同作業したり、IBM Connections を使用してメールを共有したり、コミュニティのコンテンツを表示したり、メール・クライアントから便利にワーク・メンバーと交流したりできます。

**注:** データ漏えいを防止するために、IBM Connections のゲスト (外部) ユーザーは IBM Connections Plug-in を使用してサーバーにログインすることはできません。

**プラグインをインストールするには、以下の手順に従います。**

1. セットアップ・パッケージを [ダウンロード](#) します。
2. セットアップ・パッケージを実行し、画面に表示される指示に従います。

## プラグインの修復または削除の方法

プラグインは、他の Windows プログラムと同様の方法で修復または削除できます。以下の手順に従ってください。

1. Windows の「コントロール パネル」を開き、「プログラムと機能」 > 「プログラムのアンインストールと変更」を選択します。
2. 「IBM Connections plug-in for Microsoft Outlook」を選択し、「アンインストール」または「変更」をクリックします。
3. アンインストール / 修復プロセスに従います。

## サイレント・インストールの実行

管理者は、IBM® Connections Plug-in for Microsoft™ Outlook™ をコマンド・プロンプトからサイレント・インストールできます。サイレント・インストール中には、エラーの場合 (前提条件の検査に失敗したことの通知など) を除き、ユーザー通知が無効になります。

## 手順

1. IBM® Connections Plug-in をダウンロードします。
2. コマンド・プロンプトを開き、IBMConnectionsForOutlookSetup.x[86|64].msi を保存したディレクトリーに移動します。
3. 次を実行します:  

```
msiexec /option(s) IBMConnectionsForOutlookSetup.x[86|64].msi  
[parameter=value]
```

オプションとパラメーターは以下の表にリストされています。

オプション	説明
/i	プラグインのインストール
/x	プラグインのアンインストール
/qn	サイレント・インストール
/norestart	再起動が必要な場合は、自動的にマシンを再起動しないでください。
パラメーター	説明
TARGETDIR	インストール・ディレクトリーを設定します。
ALLUSERS	なし("")に設定すると、現在のユーザーのみにプラグインがインストールされません。管理者権限は必要ありません。

## 例

### 管理者として「すべてのユーザー」に対してインストールを実行する

```
msiexec /qn /i IBMConnectionsForOutlookSetup.x[86|64].msi
```

注: 「管理者として実行」でコマンド・プロンプトを起動してください。

### 管理者として「すべてのユーザー」に対してアンインストールを実行する

```
msiexec /qn /x IBMConnectionsForOutlookSetup.x[86|64].msi
```

注: 「管理者として実行」でコマンド・プロンプトを起動してください。

## 中央インストールを実行します

管理者は、Active Directory やその他のデスクトップ管理ソフトウェアを介して、中央とリモートから IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook をインストールできます。特定のユーザーまたは特定のディレクトリーに対してプラグインをデプロイする方法については、「[インストールのカスタマイズ](#)」セクションを参照してください。プラグインで一連の IBM Connections サイトをデプロイするには、「[クライアント使用量メトリック](#)」を参照してください。

[IBM Connections Plug-in](#) は、以下のシナリオで使用量メトリックを IBM Connections サーバーに送信します。

- ユーザーが新規ビュー(「マイ・ファイル」、「コミュニティー・ファイル」など)を開くたび。
- ユーザーがプロパティ・ウィンドウを最初に開いたとき。

## IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook のプロビジョン。

プラグインをクライアント・コンピューターまたは特定のユーザーに自動的に配布できるようにする前に、以下を確認してください。

- クライアントのコンピューターはドメインに接続されています。
- Microsoft .NET Framework 2.0 以降がクライアントのマシンにインストールされています。

リモート・クライアントのコンピューターにプラグインをインストールするには、以下の手順に従います。

1. サーバー上の Active Directory を使用して、ご使用のドメインのプロパティに**グループ・ポリシー・オブジェクト**を作成します。これは、プラグインをリモートでインストールするために使用されます。グループ・ポリシー・オブジェクトのプロパティの「**セキュリティ**」タブで、プラグインをインストールするグループを選択します。
2. コンソール・ツリーでご使用のドメインのプロパティを開き、「**グループ・ポリシー**」タブで、上記で作成したグループ・ポリシー・オブジェクトを編集します。
3. 「**コンピューターの構成**」>「**ソフトウェアの設定**」>「**ソフトウェアのインストール**」を右クリックして、「**新規作成**」>「**パッケージ**」を選択します。
4. 「**ファイルを開く**」ダイアログ・ボックスで、共有ネットワーク・フォルダー上にあるプラグイン・インストール・ファイルへの UNC パスを入力します。「**参照**」ボタンを使用してファイルの場所にアクセスしないでください。
5. 「**展開**」タブで、「**展開の種類**」に「**割り当て**」を設定し、「**インストールのユーザー インターフェイス オプション**」に「**基本**」を設定して、「**OK**」をクリックします。
6. グループ・ポリシーのスナップインを閉じ、「**OK**」をクリックして、Active Directory ユーザーとコンピューターのスナップインを終了します。
7. クライアント・コンピューターの起動時に、管理対象のソフトウェア・パッケージが自動的にインストールされます。

Active Directory を使用してソフトウェアをデプロイする方法の詳細については、Microsoft サポート技術情報の記事「[Windows Server 2003 でグループ ポリシーを使用してソフトウェアをリモートでインストールする方法](#)」を参照してください。

### 注:

- インストール時は、「**基本**」ユーザー・インターフェイス・オプションを指定する必要があります。



- コンピューター上の**特定のユーザー**に対してプラグインをインストールするには、リモート・インストールの前に MSI パッケージを編集する必要があります。「インストールのカスタマイズ」セクションの説明に従ってください。

## インストールのカスタマイズ

別のディレクトリーを使用したり、特定のユーザーに対してデプロイしたりするように、プラグインのインストールをカスタマイズするには、次のようにします。

1. [Orca](#) をインストールします。
2. IBM Connections Plug-in MSI パッケージを Orca で開きます。
3. 「**Tables**」 > 「**CustomAction**」 > 「**Actions**」 > 「**DIRCA\_TARGETDIR**」で、MSI パッケージにインストール・フォルダーを設定します。プラグインを特定のユーザーにデプロイする必要がある場合は、インストール・フォルダーを "[LocalAppDataFolder][Manufacturer][ProductName]" に設定します。これによって、インストール・フォルダーが "C:\Program Files\IBM\Connections Plug-in for Microsoft Outlook" から、ユーザー指定の場所 "C:\Users\AppData\Roaming\ IBM\Connections Plug-in for Microsoft Outlook \" に変更されます。
4. MSI パッケージへの変更を保存します。
5. 詳しくは、Microsoft サポート技術情報の記事「[Windows Server 2003 でグループ ポリシーを使用してソフトウェアをリモートでインストールする方法](#)」を参照してください。

## クライアント使用量メトリック

IBM Connections Plug-in は、以下のシナリオで使用量メトリックを IBM Connections サーバーに送信します。

- ユーザーが新規ビュー（「マイ・ファイル」、「コミュニティー・ファイル」など）を開くたび。
- ユーザーがプロパティ・ウィンドウを最初に開いたとき。

## IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook のプロビジョン

管理者は、中央とリモートから IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook をプロビジョンできます。

### 中央でのプロビジョン内容

1. **Connections オプション:**
  - a. Connections サイト。
  - b. 閲覧可能な列。

2. **拡張オプション:** プロキシ設定、ドラッグ・アンド・ドロップなど。

管理者は以下を行うことができます。

1. [デフォルトの開始値を設定します](#)。この値はユーザーが後から変更できます。
2. [ユーザーに対して値を強制的に設定します](#)。この値はプラグインでは無効になり、ユーザーが変更することはできません。

## プロビジョニングの実行方法

プロビジョニングは、プラグイン・レジストリー・ツリーにキーを追加することによって行います。これには以下の2つの方法があります。

1. 中央からレジストリー・キーを更新します。これには、Windows でいくつかの方法が提供されています。方法については、「[レジストリー変更の配布](#)」を参照してください。
2. MSI 変換ファイルにキーを追加して (例えば、[Orca](#) を使用)、インストールにバンドルします。方法については、「[中央インストールの実行](#)」を参照してください。

### デフォルト値の設定方法:

#### IBM Connections Plug-in ルート・キー

管理者がプラグイン・キーを追加する先のルート・キーは、以下のとおりです。

1. 現在のユーザーのみに対して製品をプロビジョンする場合:  
HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Mainsoft\Prefs\
2. マシン上のすべてのユーザーに対して製品をプロビジョンする場合、具体的な場所は以下に示すようにオペレーティング・システムによって異なります。

オペレーティング・システム	キー
32 ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Mainsoft\Prefs\ 
32 ビット Office を実行する 64 ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Wow6432Node\Mainsoft\Prefs\ 
64 ビット Office を実行する 64 ビット	HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Mainsoft\Prefs\ 

## IBM Connections Plug-in レジストリー・キー

以下の表は、ユーザーのデフォルト値を設定するために追加できるオプションのレジストリー・キーを示しています。

キー名	(デフォルト) 値データ	説明
<b>Connections オプション:</b>		
サイト		このノードの下にあるキーがプロビジョンされたサイトです。
サイト\<<サイト・タイトル>	<URL>	サイトのルート URL。この値は必須です。  <サイト・タイトル> は、サーバーのタイトルとして使用する任意のキーです。  <URL> は、IBM Connections サーバーの URL です。 <a href="#">「URL のプロビジョニング」</a> を参照してください。
サイト\<<サイト・タイトル>\ServerType	IBMConnections	サーバー・タイプを「IBM Connections」に設定します。この値は必須です。
Sites\<<サイト・タイトル>\IntegratedSecurity	True	True は、ユーザーの Windows 資格情報を使用します。  サイトに対する認証を制御します。定義されていない場合、プラグインで最初にサイトを開いたときに、資格情報の入力を求めるプロンプトが出されます。
SavePassword	True	True は、IBM Connections のパスワードを保存します。  False は、プラグインの起動のたびにパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。  IBM Connections サイトへのパスワードの保存を制御します。

キー名	(デフォルト) 値データ	説明
<b>Disabling features:</b>		
<b>IBMConnections\HideCommunities</b>	<p><b>True</b> はすべてのコミュニティー機能を非表示にします。</p> <p><b>False</b> (デフォルト) は非表示にしません。</p>	コミュニティー機能の表示/非表示を制御します。
<b>IBMConnections\HideActivities</b>	<p><b>True</b> はすべてのアクティビティー機能を非表示にします。</p> <p><b>False</b> (デフォルト) は非表示にしません。</p>	アクティビティー機能の表示/非表示を制御します。
<b>IBMConnections\HideWikis</b>	<p><b>True</b> はすべての Wiki 機能を非表示にします。</p> <p><b>False</b> (デフォルト) は非表示にしません。</p>	Wiki 機能の表示/非表示を制御します。
<b>IBMConnections\HideActivitiesUpdates</b>	<p><b>True</b> はアクティビティーの更新を非表示にします。</p> <p><b>False</b> は非表示にしません。</p>	アクティビティーの更新の表示/非表示を制御します。デフォルトは <b>HideActivities</b> キー内の値です。
<b>IBMConnections\HideBlogsUpdates</b>	<p><b>True</b> はブログの更新を非表示にします。</p> <p><b>False</b> (デフォルト) は非表示にしません。</p>	ブログの更新の表示/非表示を制御します。
<b>IBMConnections\HideBookmarksUpdates</b>	<p><b>True</b> はブックマークの更新を非表示にします。</p> <p><b>False</b> (デフォルト) は非表示にしません。</p>	ブックマークの更新の表示/非表示を制御します。
<b>IBMConnections\HideForumsUpdates</b>	<p><b>True</b> はフォーラムの更新を非表示にします。</p> <p><b>False</b> (デフォルト) は非表示にしません。</p>	フォーラムの更新の表示/非表示を制御します。
<b>IBMConnections\HideWikisUpdates</b>	<p><b>True</b> は Wiki の更新を非表示にします。</p> <p><b>False</b> は非表示にしません。</p>	Wiki の更新の表示/非表示を制御します。デフォルトは <b>HideWikis</b> キー内の値です。
<b>IBMConnections\HideCommunitiesUpdates</b>	<p><b>True</b> はコミュニティーの更新を非表示にします。</p>	コミュニティーの更新の表示/非表示を制御します。デ

**False** は非表示にしません。

フォルトは **HideCommunities** キー内の値です。

## 詳細オプション:

### DragFilesInsteadOfLinks

**True** は、物理ファイルをドラッグします。

**False** は、ファイルへのリンクをドラッグします。

プラグインのサイドバーから Outlook へのファイルのドラッグを制御します。

### MoveEmailOnDrag

**True** は、メールを IBM Connections に移動します。

**False** は、コピーします。

メール・メッセージを IBM Connections に移動するかコピーするかを制御します。**True** に設定すると、メールはドラッグ・アンド・ドロップで IBM Connections にアップロードされた後で、メール・フォルダーから削除されます。

### OpenFilesInBrowser

**True** はブラウザでファイルを開きます。

**False** はファイルをダウンロードして関連付けられたローカル・アプリ (デフォルト) で開きます。

**ext1,ext2,...** はこれらの拡張子のファイルをブラウザで開きます。例: **.docx**、**.xlsx**

ファイルをダブルクリックするか開くときに行なわれることを設定します。**True** またはファイル拡張子に設定すると、「**アプリケーションで開く**」コマンド・メニューがファイルに追加されます。

### CopyBrowserLink

**True** はブラウザで開くリンクを作成します。

**False** は関連付けられたアプリ (デフォルト) で開くリンクを作成します。

**ext1,ext2,...** は指定した拡張子のファイルをブラウザで開くためのリンクを作成します。

例: **.docx**、**.xlsx**.

ファイルをサイドバーからメール・メッセージにドラッグ・アンド・ドロップするとき、または「**コピー**」>「**リンク**」または「**コピー**」>「**アドレス**」を使用するとき、ファイル・リンクを作成する方法を設定します。**True** またはファイル拡張子に設定すると、「**コピー**」>「**アプリケーションのアドレス (App Address)**」コマンド・メニューがファイルに追加されます。

<b>ActivitiesInterval</b>	<p>IBM Connections サーバーからアクティビティの更新を取り出す間隔を分単位で指定するか、 <b>0</b> は、自動更新を停止します。</p>	<p>更新ビューの更新頻度を設定するか、自動更新を停止します。</p>
<b>SidebarInitialState</b>	<p><b>0</b> は、プラグインを最後の状態でロードします。 <b>1</b> は、プラグインを最小化した状態でロードします。 <b>2</b> は、プラグインを最小化した状態でロードし、完全にロードされた後でサイドバーを開きます。</p>	<p>Outlook の開始時にプラグインがロードされるデフォルトの状態を制御します。</p>
<b>StoreConfigurationOnlyInRoamingProfile</b>	<p><b>True</b> は、プラグインのデータベースをローカル・プロファイルに保管します。 <b>False</b> は、データベースをローミング・プロファイルに保管します。</p>	<p>プラグインのデータベースをローミング・プロファイルとローカル・プロファイルのどちらに保管するかを制御します。プラグインのデータベースには、連絡先、最近実行したアクティビティ、ワーク・メンバーの候補が保管されます。構成オプションは常にローミング・プロファイルに保管されます。ログ・ファイルは常にローカル・プロファイルに保管されます。</p>
<b>SupportedSSLProtocols</b>	<p><b>SSLv3、TLSv1、TLSv1.1、TLSv1.2。</b></p>	<p>保護された Connections サイトに接続するために、サポートされる SSL プロトコルを設定します。複数の値をコンマで区切って定義できます。設定しなかった場合、プラグインは .NET ランタイムのデフォルト・プロトコルを使用します。 <b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TLSv1.2 をアクティブにするには、.NET Framework バージョン 4.5 以降がインストールされ、 <b>PreferredCLRVersion</b> キーが v4.0 以降に設定</li> </ul>

		<p>されている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このキーで定義される SSL プロトコルは、.NET ランタイムと OS によってサポートされている必要があります。</li> <li>サポートされないプロトコルを使用して、Connections サーバーとの接続を確立することはできません。</li> </ul>
<b>PreferredCLRVersion</b>	<b>v#. #</b> (v2.0 から v4.x)。	<p>IBM Connections Plug-in がロードして使用する CLR バージョンを設定します。設定しなかった場合、プラグインはインストールされている最小の .NET ランタイムバージョンをロードします。</p>
<b>MaxNumberOfFullBusinessCardActivities</b>	<b>#</b>	<p>フル・モードのビジネス・カードに表示される更新の最大数。デフォルトは 100 です。</p>
<b>MaxNumberOfActivities</b>	<b>#</b>	<p>「更新」タブと「コミュニティー」タブに表示される更新とコミュニティーの最大数。デフォルトは 100 です。</p>
<b>GetAllMaxLimit</b>	<b>#</b>	<p>「マイ・ファイル」ビューまたは「ピン留めされたファイル」ビューに 500 を超える項目がある場合、最初の 500 項目が表示され、サイドバーの末尾に「<b>x 項目を表示</b>」というリンクが表示されます。このレジストリー・キーは、x の値を設定します。デフォルトは 5000 です。</p>

<b>PostTextMaxLength</b>	#	投稿された最新の状況とコメントの最大文字数。デフォルトは 1000 です。
<b>FlagTextMaxLength</b>	#	ファイルまたはファイル・コメントに不適切フラグを立てる理由の最大文字数。デフォルトは 4000 です。
<b>ChangeCommentTextMaxLength</b>	#	「変更の要約」テキスト・ボックスの最大文字数。このテキスト・ボックスは、既存のファイルに新規バージョンを追加すると表示されます。デフォルトは 2049 です。
<b>IBMConnections\DisableConnectCloud</b>	<b>True</b> はクラウドに接続するためのオプションを無効にします。 <b>False</b> はそれを有効にします。	クラウドに接続するためのオプションを無効にする場合に使用します。オンプレミス・サイトの場合に使用します。
<b>IBMConnections\ShareLinksOnSend</b>	<b>True</b> はメール送信時にリンクを共有します。 <b>False</b> (デフォルト) は共有しません。	自動的にファイル・リンクを Connections ユーザーであるメール受信者に共有する機能を無効にするために使用します。
<b>IBMConnections\ShareOnSendPrompts</b>	<b>True</b> はプロンプトを許可します。 <b>False</b> (デフォルト) はプロンプトを無効にする代わりに、システム・トレイに通知を表示します。	ファイル・リンクをメール受信者に共有するときに、メール受信者が Connections ユーザーではないことなどを通知するプロンプトの発行を制御します。
<b>FailInvalidCerts</b>	<b>True</b> はサイトが有効な証明書を持たないときに失敗します。	無効または期限切れの証明書を持つか、証明書がない



---

**False** (デフォルト) は無効な証明書であることを警告します。

IBM Connections サーバーに接続するときにユーザーが行うことを設定します。

## Branding

**Branding\ProductURL\Help**

<URL>

製品ヘルプへの URL。

**Branding\DataFolders\Local**

<folder>

IBM Connections のローカル・ファイル (ログ・ファイルやディスク・キャッシュなど) を保存する場所。既存フォルダーの絶対パスに設定します。パスに環境変数 (%LOCAL\_DIR%) を使用できます。

**Branding\DataFolders\Roaming**

<folder>

IBM Connections のローミング・データ (構成ファイル) を保存する場所。既存フォルダーの絶対パスに設定します。パスに環境変数 (%LOCAL\_DIR%) を使用できます。

**Branding\DataFolders\Temp**

<folder>


IBM Connections の一時ファイルを保存する場所。既存フォルダーの絶対パスに設定します。パスに環境変数 (%LOCAL\_DIR%) を使用できます。

**Branding**

IBM Connections

組織で IBM Connections UI をカスタマイズしていて、ユーザーが異なる名前でも製品を理解している場合は、このレジストリー・キーの値をその名前で置き換えます。

---

<b>Branding\ProductName</b>	IBM Connections	組織で IBM Connections UI をカスタマイズしていて、ユーザーが異なる名前で製品を理解している場合は、このレジストリー・キーの値をその名前で置き換えます。
<b>IBMConnections\ProductName\Full</b>	IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook	組織で IBM Connections UI をカスタマイズしていて、ユーザーが異なる名前で製品を理解している場合は、このレジストリー・キーの値をその名前で置き換えます。
<b>IBMConnections\ProductName\Short</b>	IBM Connections	IBM Connections組織で IBM Connections UI をカスタマイズしていて、ユーザーが異なる名前で製品を理解している場合は、このレジストリー・キーの値をその名前で置き換えます。
<b>Branding&gt;AboutDialog\Description</b>	IBM Connections Plug-in for Microsoft Outlook	組織で IBM Connections UI をカスタマイズしていて、ユーザーが異なる名前で製品を理解している場合は、このレジストリー・キーの値をその名前で置き換えます。
<b>Branding\Logo\83x14</b>	C:\Program Files\IBM\Connections Plug-in for Microsoft Outlook\ 	プラグイン・サイドバー内のロゴはイメージ/アイコンです。レジストリー・キーで指定されるロケーションにある .png ファイルを編集し、組織で IBM Connections 用に使用している名前で置

き換えてください。 .

.png ファイルへのフルパスを指定してレジストリー・キーを更新します。

## Setting IBM Connections end-points

IBMConnections\EndpointFiles	<files endpoint> (デフォルト: files)	カスタム・ファイル・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointSearch	<files endpoint> (デフォルト: search)	カスタム検索エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointCommunities	<files endpoint> (デフォルト: communities)	カスタム・コミュニティー・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointProfiles	<files endpoint> (デフォルト: profiles)	カスタム・プロフィール・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointActivities	<files endpoint> (デフォルト: activities)	カスタム・アクティビティー・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointWikis	<files endpoint> (デフォルト: wikis)	カスタム Wiki エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointBlogs	<files endpoint> (デフォルト: blogs)	カスタム・ブログ・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
IBMConnections\EndpointForums	<files endpoint> (デフォルト: forums)	カスタム・フォーラム・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構

		成します。
<b>IBMConnections\EndpointHomePage</b>	<b>&lt;files endpoint&gt;</b> (デフォルト: <b>homepage</b> )	カスタム・ホーム・ページ・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。
<b>IBMConnections\EndpointOpenSocial</b>	<b>&lt;files endpoint&gt;</b> (デフォルト: <b>connections/opensocial</b> )	カスタム・オープン・ソーシャル・エンドポイントに要求を発行するようにプラグインを構成します。

### ユーザーに対して値を強制的に設定する方法:

ユーザーに対して値を強制的に設定し、プラグインの「オプション」ダイアログでその値を無効にするには、前述の任意のプラグイン・キーに次のように新しい値を追加します。

キー名	値の名前	値タイプ	値データ
<任意>	強制	DWORD	1

**注:** サイトの設定のデフォルトは、Force=1 です。サイト・レジストリー・キーを定義すると、ユーザーは IBM Connections サイトを削除も構成もできなくなります。ユーザーが IBM Connections サイトを削除または構成できるようにするには、Force=0 を設定してください。

### URL のプロビジョニング方法

IBM Connections サイトのプロビジョニングには、以下の URL 形式を使用してください。

- <http://<server>>
- <https://<server>>

**注:** aspx ページまたは照会パラメーターを指定しないでください。

**ヒント:** プラグインで IBM Connections の場所を開き、右クリックして、「コピー」>「アドレス」を選択し、正確な URL を取得することができます。

例: タイトル MyConnectionsSite と URL <https://greenhouse.lotus.com> を指定して IBM Connections のサイトを定義するには、次のようにします。

キー名	(デフォルト) 値データ
<b>Sites</b>	
Sites\MyConnectionsSite	<a href="https://greenhouse.lotus.com">https://greenhouse.lotus.com</a>
Sites\MyConnectionsSite\ ServerType	<b>IBMConnections</b>
SavePassword	<b>True</b>

### 管理者とユーザーの設定の結合方法

管理者が強制値を定義していない限り、HKEY\_LOCAL\_MACHINE に設定された管理者設定は、ユーザー設定より優先されることはありません。具体的には、ユーザーが設定を変更していて、管理者が後で製品をプロビジョンした場合、ユーザー設定は置き換えられません。

HKEY\_CURRENT\_USER に設定された管理者設定は、ユーザーの設定を置き換えます。管理者が強制値を定義していない限り、ユーザーはプラグインの「オプション」ダイアログを使用して設定を上書きできます。